図鑑

鳥になった きょうりゅうの話

鳥になった きょうりゅう

平山 廉 監修

鳥にかわっていった恐竜

なぜ、空をとべるようになったの？

羽毛をもつ恐竜のなかから、前あしの羽毛がつばさ（とぶための羽）にかわったものがあらわれました。長い時間をかけて前あし全体がつばさに進化し、つばさを上下に羽ばたかせて自由に空をとべるようになったのです。どうかわっていったのかを見てみましょう。

デイノニクス
前あしにつばさがあり、手首のほねは鳥とにた動きができました。

ゴビヴェナトル
つばさと長い尾の先に尾羽をもち、鳥ににたすがたをしていました。

現代の鳥（カモメ）
前あしはつばさにかわり、体のほねやきん肉も、とぶためにつごうのよいつくりになりました。

コンフキウソルニス
現代の鳥とよくにたすがたで、尾羽のほねは短く、前あしにはかぎづめがありました。つばさで羽ばたいて、とぶことができました。

アーケオプテリクス
もっとも古い鳥のなかまのひとつで、つばさを広げて短いきょりをとぶことができました。長い尾羽がありました。

空をとぶようになったのは、てきからにげたり食べ物をさがしたりして、木から木へとびうつったり坂道をかけのぼったりしているうちに、羽ばたく力をつけたからではないか、などと考えられています。つばさのほかにも、空をとぶのにつごうのよい体のつくりにかわっていきました。それらを見ていきましょう。

恐竜3本文__入稿_修正.indd 6-7
2022/12/21 11:43

column

始祖鳥のひみつ

「始祖鳥」とは、今から1億5000万年ほど前に生きていたアーケオプテリクスという恐竜の和名（日本のよび名）です。1861年にはじめて見つかった化石は、恐竜と鳥の両方のとくちょうをもつすがたでした。恐竜から鳥への進化のひみつをとくヒントになる発見として、世界中で知られています。

2009年には、さらに1000万年ほど古い地層から、アンキオルニスの化石も見つかったのです。

▲アーケオプテリクスの化石。つばさや羽毛のあとが、はっきりとのこっている。

▲4本のあしにあるつばさを広げて、えものにとびかかったりした。「始祖鳥」とは「鳥の祖先」という意味だが、現代の鳥ほどじょうずにはとべなかった。

◀体の大きさはカラスほどで、黒く光る羽をもっていた。

恐竜3本文__入稿_修正.indd 18-19 2022/12/21 11:44